

2016 年診療報酬改定 厳しい取り組みが求められる改定



社会医療法人近森会
管理部長 寺田 文彦



今年の診療報酬改定

2016年4月の診療報酬改定は、高齢化・重度化・高度化する医療体制と、社会保障費の増加に伴う診療単価の見直しが行われ、全体改定率が－0.84%となり、各ステージの診療体制に影響を与える内容となりました。

入退室基準や算定基準の見直し

来年度から予定されている、第7期地域医療計画に盛り込まれる「地域包括ケアシステム」の構築と連動して、高度急性期、急性期、回復期、慢性期（在宅含む）の各ステージの入退室基準や算定基準の見直しが図られています。それにより各病院では専門性の高さや業務の効率化、標準化を担保することが病院存続の条件となり、自院にない機能をアライアンス連携することが明確に求められました。

各ステージの具体的な取り組み

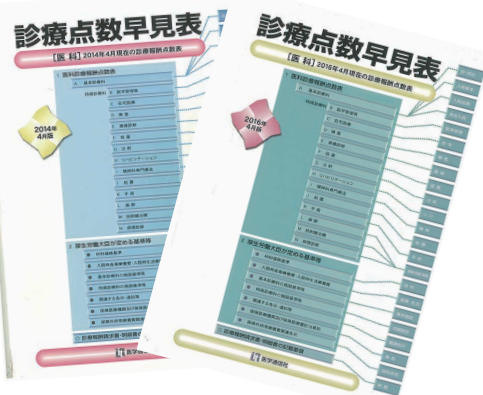
具体的には、高度急性期治療を行う

ための看護師配置の高い集中系病棟や7対1看護基準病棟の要件の見直し、総合入院診療体制をとっている病院の選別や認知症患者に対する早期アプローチ、身体疾患を併存している精神疾患患者の治療連携、重度かつ慢性期治療を行う患者要件の見直しや施設・在宅医療の推進など、多岐に及ぶ改定内容となっております。

当法人では4月のスタート時点から、従来の治療方法の精度を上げており、部署間でも業務内容の配分を調整して基準の見直しに対応しています。今後は、病院のホームページなどで診療科の実績を明示することが義務化され、診療実績など、他院と比較される時代の幕開けとなります。

近森会の対応

近森病院は、3次救急など高度急性期の治療を行うために、5カ年建築計画で免震・耐震基準に加えヘリポートを設置、ERや手術室、血管造影室や内視鏡センター、集中系病棟の拡張・整備を行いました。手術や高度処置が必要な紹介患者の受け入れや救急搬入



患者の増加に対応するために、重症の長期入院患者の転院促進が図られつつあります。

一方、回復期機能を受け持つ近森リハビリテーション病院や近森オルソリハビリテーション病院も、新築・改修移転を行って病棟やリハビリ訓練室の拡充、機器の整備を行ったことで、より多くの患者さんを受け入れ、より充実した治療や早期リハビリテーションができるようになりました。

来たるべき時代に向けて

来たるべき時代にふさわしいハード・ソフトと共に、更なるマンパワーの充実を図り、「高度急性期から在宅医療まで」の理念のもとで、高齢化・重度化・高度化した患者さんの治療に、職員一同、一丸となって邁進してゆきたいと思います。

てらだ ふみひこ



麻酔関連機器の進歩

近森病院麻酔科

部長 楠目 祥雄



聴診器を片耳にだけあてて、手術患者さんの呼吸音を聞きながら、最低5分に1回は「シュポシュポ、シュー」と血圧を測り、心拍数と共に素早く記録紙に記入する。目は手術野と心電図モニターと患者さんの顔色・瞳孔を代わり番こに睨めつて、追加の麻酔薬は素早く注入。そして右手はそれら以外

の時、眠っている患者さんの人工呼吸のために、手術が終わるまでずっと呼吸バッグを揉み続けます。それが30年昔の私ら新人麻酔科医の日常業務スタイルでした。なかなかの重労働です。

それが今や、血圧は自動測定どころかデータも勝手に電子カルテに取り込まれ、もちろん人工呼吸器もフル装備、注射薬の精密注入ポンプも使い放題です。しかし、器械の進歩は麻酔科医の空いた手をもっと綿密な麻酔管理に向けただけではありません。

血液の酸素飽和度を連続測定する器械、心臓機能を自動的に繰り返し測定する器械、人工呼吸のためのチューブを気管挿管する時にカメラで見ながら操作できる器具、鎮静・催眠の具合を数値で表してくれる装置、注射をする時に血管や神経をくっきり写してくれる超音波装置、その他にも多くの機械的進歩がありました。

これらのお蔭で、より正確で精密な術中管理が可能になり、前述の新しい

麻酔薬の開発と相まって、重症手術患者さんに対しても麻酔の可能性と安全性がぐっと広がりました。

さてしかし、これでもう何もかも完璧なのかといいますと、実はそれ程でもありません。次回最終回で、現状の問題とこれからのことについて述べたいと思います。

くすめ よしお

9月の歳時記

キンモクセイ

障害者福祉サービスセンター
ウェブ 支援員 松江 珠里

街並みを歩いていると何処からともなく漂ってくる甘い香り。キンモクセイの香りは、私にとって大好きな香りのひとつです。オレンジ色の小さくてかわいい花は、開花からわずか1週間ほどで散ってしまいますが、存在感のある香りで秋の訪れを感じさせてくれます。毎年、キンモクセイの花の近くで深呼吸をするのがとても楽しみです。

まつえ じゅり



絵・近森病院
附属看護学校
事務局
南幸子

近森看護学校通信 11

平成 29 年度入学生募集のお知らせ

本校では平成 29 年度入学生の募集を下記の日程で行います。看護師を目指す皆さんの応募をお待ちしております。

入学試験の日程

	出願期間	試験日	募集人員
推薦入試	平成 28 年 9 月 19 日 (月) ～ 10 月 3 日 (月)	10 月 16 日 (日)	15 名
一般入試 (一次)	平成 28 年 11 月 14 日 (月) ～ 11 月 28 日 (月)	12 月 11 日 (日)	25 名
一般入試 (二次)	平成 29 年 1 月 16 日 (月) ～ 1 月 30 日 (月)	2 月 12 日 (日)	若干名

※募集の詳細につきましては、本校の Web サイト、
または事務局 (平日 9:00～17:00) までお問い合わせください。
【お問合せ先】TEL 088-871-7582(代) 近森病院附属看護学校 事務局



住み慣れた家につながる看護

近森病院北館 3 階病棟
看護師長 川久保 和子

身体に障害があり全介助で一人暮らしをしていた患者さん「今日の天気は？」看護師「雨ですよ」患者さん「私の心も雨模様（笑）」入院すると心は晴れないようです。

認知症で病気も入院していることも理解していない義理父「早く家に帰り

たい……」という言葉だけは繰り返す。突然介護が必要になったり、病気の不安があったり、転院や施設入所を余儀なくされる患者さんもおられますが、ほとんどの患者さんが住み慣れた家に早く帰ることを望んでいるのはいうまでもありません。

私たち北館 3 階病棟では、家に帰りたい患者さんのお手伝いが滞りなくできるよう、他職種と協働し日々頑張っております。優しく頼りになる男性看護師が 5 名配置されていることは強みであり、患者さんの残された機能を最大限に活かせるよう包容力のあるケア



患者さんやご家族が自宅で困ることのないよう、時には在宅医・訪問看護師・ケアマネ・ヘルパー・福祉用具事業者等、地域で支えて下さる方々を選定し、話し合いを持ちながら退院を目指していきます。症状さえ落ち着いていれば在宅チームが太っ腹で引き受けて下さることがほとんどです。

退院支援をしている私たち病棟看護師も、お家に帰れる患者さんもキラリと輝けるような活動をこれからも続けていきたいと思います。

かわくぼ かずこ

ハッスル研修医

少しでも打ち解けたい



初期研修医 大貫 慧介

4 月から近森病院で研修させていただいています。神奈川県出身で、高知在住 7 年目です。

大学で何を勉強してきたのかというほどに病院内で右往左往していた 4 月が懐かしく思います（今も挙動不審ですが……）。近森病院での研修は滝を浴びるかのごとくいろいろな経験ができ、昨日よりも今日の、今日よりも明日の自分が成長できていることを日々実感しています。本当に幸せな生活を送れていることには感謝しかありません。

最近の悩みで恐縮ですが、病院スタッフの皆さんと少しでも打ち解けたいと思い、ちょっとした声かけを意識してはいるのですが、なかなかうまくいきません。どうかひとつお力添えをお願いしたいです。

ところで鎌倉は、実は高知とつながりのある土地なんです。ドラマ「功名が辻」のモデルにもなった土佐山内家のルーツは相模国の鎌倉を出自とする山内首藤氏だとされています。探してみるとちょっとしたつながりってあるものですね。

おおぬき けいすけ

「時の分水嶺」



近 森 正 幸

4 月の診療報酬改定の衝撃度の強さは、雑誌やメディアファックス、インターネットにその影響度の深刻さが一切現われていないことである。

これまでは 7 : 1 看護の急性期病院では、一般病棟や高規格病棟の重症度、医療・看護必要度、回復期リハ病棟では FIM による改善率、慢性期は医療区分 2、3 の重度の患者さんの比率で、入院患者さんが絞り込まれ、稼働率が下がり競争が激しくなっていたためと考えていたが、それだけではこんな大きな衝撃はやってこない。

今回の診療報酬改定の恐ろしさは、1%のマイナス改定以上に、上に述べた診療報酬の算定要件で、急性期は

かりでなく各ステージにおいて大幅な単価の減少を来たしていることである。たとえば落ち着いた医療療養病床入院基本料 2 においては、これまで求められていなかった医療区分 2、3 の重度の患者さんが 50%以上入院していないと入院基本料の 100 分の 95 の算定となり、5%の患者単価の減少となる。

医療区分 2、3 の重度の患者さんが 80%以上入院している医療療養病床入院基本料 1 を算定している病棟では、単価の減少はないものの急性期に比べはるかに少ない医師や看護師が忙しく働き、必死になって職場を守っている。

これからは楽に仕事をして、そこそこの給料をもらっている病院と名のつく医療機関は、存在すら出来なくなる時代を迎えている。これまでの医療は税金や保険料で補填され、医師や看護師は法律や診療報酬で守られていたが、これからは一般企業並みの厳しい経営が求められるようになると思われる。

あと何年後かに振り返ると、日本の医療が大きく変わった「時の分水嶺」は、この 4 月の診療報酬改定であったといえるのではないかな。

理事長・ちかもり まさゆき

「乞!熱烈応援」

整形外科医療のために



近森病院整形外科
部長 三宮 将典

このたび、整形外科部長を拝命いたしました。重責を担うことになり身の引き締まる思いです。

ひきつづき衣笠統括部長のもと、高知の整形外科医療の発展ために、頑張っていきたいと思います。それには、みなさまのご協力が必要不可欠ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

まだまだ未熟ではありますが、これからも引き続きで指導よろしく願います。

さんのみや まさのり

最新治療のご紹介

新しい人工呼吸器

EVITA INFINITY V500 について



近森病院呼吸器内科
部長 石田 正之

当院では多くの呼吸不全患者さんが入院します。そのような患者さんは治療により呼吸の状態が改善するまで、不足した呼吸を補う必要があります。その呼吸を補う役目が人工呼吸器になります。人工呼吸器管理は呼吸不全や急性肺障害の方を治療するための一つの手段であります。人工呼吸管理自体がその守るべき対象である肺を傷つけてしまうという矛盾があります。特にARDS（急性呼吸窮迫症候群）といった非常に重症な肺障害を生じている患者さんにおいては、いかに肺を傷つけない、保護しながら、必要な呼吸を補っていくかというのは非常に大きな課題です。

そこで近年新たな呼吸管理方法として、APRV（airway pressure release ventilation）という呼吸管理が行われるようになりました。この呼吸管理方法により、肺の障害を少なくさせ、かつ必要な呼吸を提供するというのが

できるようになりました。

APRVを行うことができる呼吸器は現在いくつかでてきています。しかしこの呼吸器はAuto Releaseモードをはじめとした、より厳密にAPRVを行うことに特化した技術が搭載されています。

当院ではどのような呼吸不全にも適切に対応できるよう、2005年から呼吸管理チームが活動を行っていますが、ソフトの面だけでなく、最新の機器の導入によりハードの面からもより質の高い呼吸管理の実践を常に行ってまいります。

いしだ まさゆき



リレー エッセイ

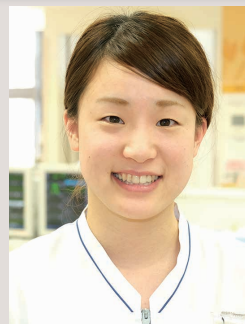
私の趣味は、スポーツです。観戦では、サッカーや野球、バレー、バスケットが多く、自分で実際にやっているのはバスケットです。バスケットは小学6年から現在も続けています。

きっかけは叔母がバスケットをしていたこともあり一度体験に行ってみたところ、はまりミニバスケット・部活動をやっていました。ミニバスでは入ってすぐ全国大会ヘルールも分からないまま出場、高校ではインターハイに出場しました。現在は、一般のクラブチームに入り、中学時代に一緒にプレーしていた仲間と楽しんでいます。

バスケットを通していろんな人に出会い、しんどいことやつらいこと

バスケットを通して

近森病院本館5階B病棟
看護師 中山 佳胡



もありましたが仲間に支えられながら取り組み、今ではいい息抜きとなっています。

バスケットではゴールを決めると2点入ります。なぜ2点入るのか知っていますか？それは最高のパスを出した人と最高のシュートを決めた人に、それぞれ1点ずつ与えられるからだそうです。私は小さいためシュートを決めるよりもパスをさばく方が多いですが、仲間がシュートを決めてくれたときは嬉しく、チームプレー

の難しさ、楽しさを実感しています。

仕事をしていると時にはつらいこと、苦しいこともありますが続けられているのは、自分のしたことて笑顔になったり、元気になる人がいるから、そして何よりも自分を支えてくれる上司、仲間がいるからです。興味のある方は一緒にしませんか？

なかやま かこ

第3回高知県心臓血管チーム医療研究会

2016年7月21日

チーム医療に特定看護師・ 診療看護師が果たす役割 ー藤田保健衛生大学での育成の経験からの考察ー

近森会グループ
統括看護部長 岡本 充子

藤田保健衛生大学大学院保健学研究科において、診療看護師の育成に携わっておられる渡邊孝先生による講演会が7月21日に開催されました。

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、2016年10月1日から手順書により特定行為を行う看護師に対

し、「特定行為研修」の受講が義務づけられ、近森病院でも「特定行為研修」開始に向けた準備を進めています。その時期に渡邊先生から日本におけるNP（Nurse Practitioner）・PA（Physician Assistant）制度について検討してきた経緯や2012年より育成してきた診療



看護師の活躍の話を伺えたことは、看護管理者として特定看護師や診療看護師をどのように位置づけ活動してもらうのがよいのか、看護師のレベルアップにどうつなげていけばよいのか考えるヒントを得る機会となりました。

今回の講演内容を今後の看護師育成につなげていきたいと思います。

おかもと じゅんこ



第59回日本糖尿病学会年次学術集会

2016年5月19～21日

糖尿病チームの活動

近森病院薬剤部 大年 加純

近森病院では整形外科など外科系病棟を中心に、薬剤師が主導して糖尿病カンファレンスを行い、周術期血糖管理に介入するようになり約4年が経ちました。カンファレンスでは公文先生にご指導いただきながら血糖管理などに日々奮闘しています。

今年5月に京都で開催された第59回日本糖尿病学会年次学術集会で、私たちの取り組みについて発表をさせていただき、その場で質問いただいた東京の下北沢病院の先生から、カンファレンス見学の依頼がありました。

下北沢病院は糖尿病足病変に特化した新しい病院であり、限られた糖尿病専門医のなかで、糖尿病患者の血糖管理を如何に効率的に行っていくかが、今後の課題とのことでした。

私たちの取り組みに対してご興味を持っていただき、最後に「素晴らしい取り組みをされていますね」と、お褒

めの言葉をかけていただきました。

薬剤師は服薬指導するだけではなく、医師とともに治療にも関わっていくことが出来るのだと、改めて、急性期病院での薬剤師としてのやりがいを感じる事が出来ました。

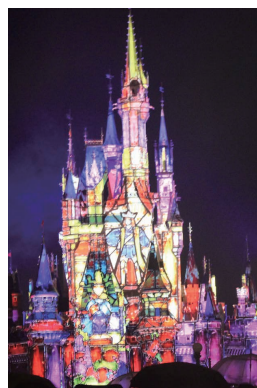


今後も血糖管理を通して、糖尿病合併症予防に貢献できるよう、努めていきたいと思っています。

おおとし かすみ

職員旅行

東京ディズニーランドに行ってきました。





「オールちかもり」 を合言葉に！

よさこい実行委員会代表
経理課 五藤 大策

よさこいチーム「ちかもり」は、皆さんの声援を受け、今年も最高に熱く、楽しい夏を過ごしました。今年で7年連続出場のちかもりでしたが、来年以降の活動を休止することが本祭前に決定したため、文字通り「ファイナルダンス」となる今年は、歴代の代表や踊り子さんたちの想いも含め、「オールちかもり」を合言葉に、心を一つに演舞できたのではないかと思います。

受賞という有終の美を飾ることはできませんでしたが、沿道からの多くの声援を聞いていると、踊り子さんたちの決意や感謝の気持ちが観客の方々にはしっかり伝わっていると感じました。総勢120名という大人数で、よさこい祭りという共通目標を達成できたことは、私のなかで大きな財産です。

ご声援いただいた皆様、7年間本当にありがとうございました。

ごとう だいさく



▼撮影・放射線科部長 宮崎延裕▼





私の趣味

女子力の向上を視野に？

総務部総務課 岡崎 千沙



◀ サラダ（ミント入り）、ジャガイモのチーズ焼き（ローズマリー入り）、ハーブティー（適当にミックス）



中央の白い花がジャスミン

自己紹介する機会はそうありませんが、いつも趣味で困ります。正直に言えばTV・漫画・ネット・音楽等の鑑賞系全般…、後は昼寝ですが言いつらく、新しい趣味を求め放浪しています。スノーボード、ランニング、洋裁などなど、手をだし引っ込めて、現在ハーブ栽培、ガーデニングをわたしの趣味として一押ししています。

お休みの日、天気がいい時ボーッと庭を眺め、たまに支柱を立てたり、刈り込んだりします。去年、とりあえずオシャレで手入れが簡単そうなハーブを数種類植えました。メリッサ、ローズマリー、バジル、セージ、ラベンダー、レモングラスなどなど。何の知識もなく、とりあえず園芸店にあったものを庭の空いている所へチョコチョコ植えたので、葉っぱだけ茂って花を咲かせなかったり、ひっそり消えてしまったりしたものもあります。

当初の計画では、料理・菓子から各種ハーブグッズの作成まで積極的な利用で女子力の向上を視野に入れていましたが、結局去年は、たまにお茶にしてみたり（刈りとった葉をそのまま、もしくは乾燥させて）、お風呂に入れたり（同上）、サシェを作る（乾燥させ袋詰め）ぐらいでした。まだ今年も引き続き趣味にハーブを押ししているので、上記ハーブグッズが欲しい方はお声がけください。

おかざき ちさ

ザ・RINSHO 管理部 2



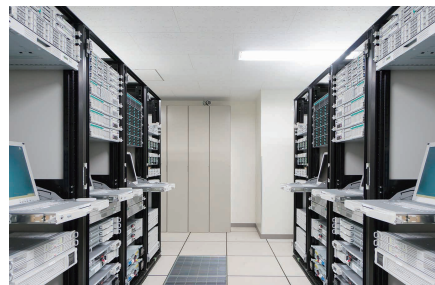
システム管理室は、近森会グループの電子カルテシステムをはじめ院内の情報システムの導入支援や保守・管理を行う部署になります。

■ 24時間 365日

近森病院は、入院患者さんやERでの救急患者さん治療のため、24時間365日稼働しています。これにあわせて、電子カルテシステムなどのサーバも休むことなく稼働しています。

もし、これらのシステムが停止すると各処理がアナログ対応となり診療スピードが大幅にダウンし、患者さんをお待たせするなど多大な影響が出てしまいますので、サーバなどの機器点検は毎日実施し、障害を未然に防ぐことに努めています。

24時間 365日

診療支援部システム管理室
室長 長山 信夫

す。

■ 故障時の対応

システム管理室スタッフは宅直体制をとっています。もし、システムエラーが発生した場合は、サーバ室に取り付けた監視システムが作動し、自動的に呼び出しがかかる仕組みになっており、迅速な対応をとれるようにしています。

今後も停止しない医療情報システムの構築に努めていきたいと考えております。

ながやま のぶお

ワイン講座 ● 46

ぶどう品種を知り、個性を探る
白ぶどう その23

スペイン篇 パロミノ

スペインで最も重要な白ぶどうと言っても過言ではありません。この品種は、シェリー酒を作るのに最も重要とされています。シェリー酒とは、唯一無二のもので、スペイン南部アンダルシア地方にあるヘレスを中心とした限定された地域で作られています。その作り方は、アメリカン・オークの樽で最低3年間、特有のソレラ・システムによって熟成される酒精強化ワイン（ワインのアルコール発酵中にブランデー添加したもの）。

シェリー（Sherry）とは英語名で、スペインではビノ・デ・ヘレス（Vino de Jerez）：ヘレスのワインと呼ばれています。シェリー酒が広く知られたのは、1587年イギリスのフランシ

アルマセニスタ・フィノ・デル・プエルト（1/183）／エミリオ・ルスタウ社（ホセ・デ・ラ・クエス氏製造）／スペイン、アンダルシア地方、プエルト・デ・サンタ・マリア地区 ● アルマセニスタとは古くから伝わる蔵を持ち、代々受け継がれてきた素晴らしいシェリーをストックさせている人の事。現在では数十人と貴重な存在。爽やかかつ軽やかで繊細な風味。食前酒としてまた生ハムや、シーフードとの相性が良い。

ス・ドレイクがアンダルシア海岸を襲撃した際、スペインの無敵艦隊の食料船から高価なシェリーを持ち帰りその味がイギリス人を魅了しました。それ以来イギリスはもとより、世界中にヘレスのワインが輸出され知られることとなりました。

出来上がるタイプは様々で、爽やかでほんのりアーモンドの風味を持っている繊細な辛口から、深く個性的な香りとコクのある熟成タイプまで。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



第154回地域医療講演会

2016年8月5日

国立精神・神経医療研究センター
神経内科医長の山本敏之先生 ▶

嚥下造影検査の観察ポイント

近森病院神経内科

部長 葛目 大輔

国立精神・神経医療研究センター神経内科医長である山本敏之先生をお招きして、「嚥下造影検査」の観察ポイント

という演題でご講演をいただきました。

近森病院において嚥下造影検査の件数は少ないですが、山本先生のご講演を通して、嚥下造影検査がどのような検査であるのか、どこを観察点として評価する必要があるのかを、医師以外の co-medical staff にもわかりやすく解説いただいたと思いました。

私自身も今回のご講演を拝聴して、嚥下造影検査の勘所が分かり、早速、日々の嚥下造影検査に生かすことが出来るようになりました。

嚥下造影検査を通して、患者さんのQOLの向上に少しでも寄与したいと思っています。

くずめ だいすけ



第47回日本看護学会—在宅看護—学術集会

2016年7月22、23日

▼学会で活躍した若手たち▼

「高知市文化プラザかるぽーと」での報告

地域医療連携センター

看護師長 山本 詩帆

約1年前から準備委員として関わり、学会当日は運営委員、シンポジウムの座長として貴重な経験をさせていただきました。他にも当院からは示説の座長や運営委員として数名が関わり、3演題の発表も行いました。

■「抗てんかん薬を自己中断した患者に対する服薬継続への援助」

門田航、酒井由夏、森澤恵

抗てんかん薬を自己中断し入院となった患者に対し、退院後も継続して服薬ができるように患者パンフレットを作成、多職種と協力して退院指導を行った事例について報告しました。

■「慢性心不全患者への効果的な支援を目指して 心不全増悪因子のアセス

メント用紙の作成」

尾崎裕子、山本暢明、山本詩帆

心不全で繰り返し入院する患者の在宅療養上の問題点を抽出し、実現可能な自己管理方法を患者・家族と共に考え、教育・支援していくためのガイドとして作成したアセスメント用紙について報告しました。

■「退院支援の質向上を目指した看護部の取り組み」

山本詩帆、森本志保
吉永富美、岡本充子

2015年に行った、退院支援に関する研修の見直し、療養支援ナース委員会の立ち上げ、在宅看護専門看護師を



▲山本暢明さん、尾崎裕子さん

▲門田航さん

病棟師長として配属した病棟での取り組みについて報告しました。

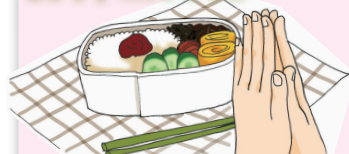
学術集会のテーマは「人・ケア・地域を創る在宅看護～一人ひとりが輝いていくために～」でした。近森病院看護部の理念の一つである、チーム医療と地域連携の中で看護の役割を発揮し、その人らしい生活が送れるような支援をこれからも続けていきたいと思っています。

やまもと しほ

お弁当拝見 45 母のお弁当を手本に

近森病院放射線科

看護師 竹内 沙耶



学生の頃は母にお弁当を作ってもらっていましたが、入職を機に自分で作り始めました。作り始めた頃は、ご飯以外は冷凍食品ばかりでしたが、最近は料理が好きで、休日におかず

を一気に作ったりしています。

作り置きおかずを詰めるだけのズボラ弁当ですが、自分で作るようになり、お弁当を作る大変さが分かりました。今でも母が作ってくれるこ



とがありますが、朝の短い時間で、味も見栄えも完璧な母のお弁当をお手本に頑張って作りたいです◎◎

たけうち さや

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

人の動き 敬称略

おめでとう

編集室通信

夏の終わりを、ミンミン蝉とツクツクボウシの混声合唱と、夜にはこおろぎやマツムシが秋の調べを奏でて知らせてくれます。そんな淋しさを感じる時間のなかで、夏のアルバムを閉じる時間がやってきた。私のアルバムには、Final Dance となった“ちかもりよさこいチーム”の演舞がたくさん貼り付けられている。踊り子のみなさん、スタッフのみなさん夏の思い出をありがとう。

由似

図書室便り

2016 年 7 月受入分

- WHO classification of tumours of the lung, pleura, thymus and heart 4th ed / William D Travis (他編)
 - ヘルスプロバイダー向け ECC (救急心血管治療) ハンドブック 2015 / American Heart Association
 - 腫瘍取扱い規約 2016 年 7 月第 7 版 / 日本腫瘍学会 (編)
 - 医療ガス保安管理ハンドブック全訂増補 / 医療機器センター (編)
 - 訪問看護業務の手引: 介護保険・医療保険平成 28 年 4 月版 / 社会保険研究所 (編)
 - 地域連携実務データ活用とツール集病院経営に貢献できる / 木佐貫篤 (他著)
 - 運営協議会委員のための国民健康保険
 - 必携 2016 改訂 22 版 / 国民健康保険中央会 (監)
 - 戦略的病院経営マネジメント財務分析・管理会計変革へのケース・スタディ / 井上貴裕 (編著)
- 《別冊・増刊号》
- こころの科学 SPECIAL ISSUE 2016 ここまでわかった! 脳とこころ / 加藤忠史 (編)
 - こころの科学 SPECIAL ISSUE 2016 公認心理師への期待 / 野島一彦 (編)
 - INFECTION COTROL 2016 年夏季増刊オールカラー 感染対策素朴なギモン解決メソッド Q & A / 鍋谷佳子 (他編)
- 《視聴覚資料》
- ・Audio-Visual Journal of JUA Vol.22No.3 / 日本泌尿器科学会 (企・監)

2016 年 7 月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	18,468 人
新入院患者数	964 人
退院患者数	975 人

近森病院 (急性期)

平均在院日数	14.81 日
地域医療支援病院紹介率	65.94 %
地域医療支援病院逆紹介率	139.27 %
救急車搬入件数	647 件
うち入院件数	313 件
手術件数	426 件
うち手術室実施	288 件
うち全身麻酔件数	160 件

● 2016 年 7 月 県外出張件数 ●
件数 78 件 延べ人数 156 人

得意の「出会い力」で頑張ります

宮澤靖部長の集中講義と、実習と

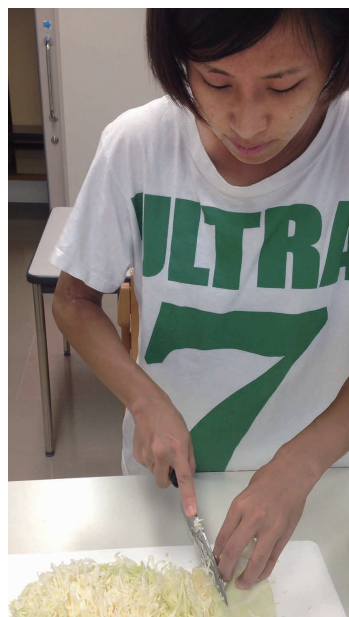
昨年の冬地元紙に「本県唯一の女性審判員でさまざまなスポーツを経験したのち、行き着いたのがラグビーだった」と特大写真付きの大きな記事が載っていた。中学時代、卓球部の主将を務め、陸上部の助っ人で大会に出て…、通知簿の体育はずっと「5」で…（以下略）、運動神経の良さが光るエピソードがいっぱい紹介されていた。

その「抜群の運動神経」にも増して、際立つ瑞愛さんの真骨頂は、大学時代に経験した近森会臨床栄養部宮澤靖部長の集中講義と、それに続く一週間の実習を、就職のきっかけとした持ち前の「出会い力」にありそうだ。

女子栄養大学3年次の講義と実習。患者さんのできるだけ近くで、いちばん日常的な行為でもある「食べること」を、治療に結びつけるように努力する。この体験にピンときて、「病院で働く栄養士という仕事のやり甲斐」を想像した。大学での学びを職業や生き方にどう繋げるか、それを一週間の「講義を通しての出会い」で、何らかイメージできたというのである。

一年間の研修後に就職

そして迎えた大学4年生の夏、「治



▲調理は特に「切る」行為が大好き！

療に結びつく栄養管理の仕事に就けたら、きっと自分の日常に『張り合いみたいなもの』が感じられる？でも、こんな机の上で勉強しただけの自分が、現場でどんな風に動けるか、よく分からないし、不安もいっぱい……。』

そんなとき、卒後に「研修」という形で栄養管理を具体的に学びながら経験を積める方法が栄養士の世界にもあることを、大学の教官から教えられる。ここで再び、あの宮澤部長の集中講義を思い出し、患者さんの存在を想定してこんな体調なら自分はこれが食べたいとか、イメージを膨らますことができた。宮澤部長のもとでもっと勉強し、研修を受けたい！これをすぐに実践に繋げる行動力は、スポーツで訓練してきた記録が伸びやすい楽天性のおかげ、ともいえるのではないだろうか。

一年間の「研修」を経て近森会への就職が決まった。高校時代まで育った福井県の空の色より、大きく南に拓けた高知の風土が、どうやら瑞愛さんの肌には合ったようでもある。どの地を職場に選ぶかよりも、どんな職場風土で働きたいかを、一年研修を終えた時期に、「真剣に考えた」結果でもあった。

スポーツ万能の「素(もと)」

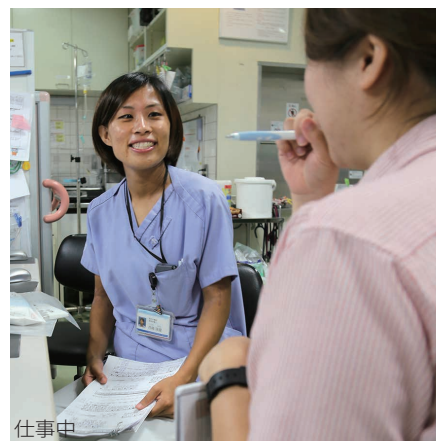
ところで、瑞愛さんはなぜそんなにスポーツ万能なのだろう。毎日欠かさない柔軟運動とか、運動前後のアップやクールダウン運動を丁寧に行なうといった基本的な根気の良さがあるのは、いうまでもないけれど。

実は、雨でも雪でも、6年続けた自転車通学が体力のもとだと瑞愛さんは解釈している。中学校は山一つ、高校



【お問い合わせ】 高知県ラグビーフットボール協会 女子委員会 西森

▲ラグビー「RED CORAL」募集ポスター



工作中

は山二つ越え、母親からは「競輪選手みたい(笑)」とからかわれるほどに太ももを「立派に発達」させてしまったが、自転車を漕ぐという単調な動作をひたすら続け、その往復で培った体力には、相当な年季が入っている。

看護師の母親は、勤務の不規則さなどもあってか倒れて寝つく時期があった。単身赴任のサラリーマンだった父親の代わりに、同居の祖母と妹と母親のために、小学校高学年から数年間、夕飯作りに精出した。母親の体調が回復するまで、台所を預かった経験もまた、病気の治療に繋がる食事や、身体のために食べ物に拘ることを、身をもって経験できたのだろう。こちらも年季が入っている。

そしていま、高知生活は合間を縫っての趣味、新聞報道にもあったラグビーの審判のための遠征や、基礎体力保持の運動を続けつつ、はや6年目に突入した。毎日時間との闘いでもあるが、「楽しいから忙しさは苦になりません。皆さんに助けていただくばかりですが、精一杯がんばります」。相変わらずの慌ただしい毎日が続く。

● 訂正とお詫び ●

「ひろっぱ」361号(8月)の「人物ルポ 池田馨さん」の写真説明に、誤りがありました。



訂正してお詫びいたします。
誤) フィレンツェの街並み
正) フランスの街並み

中高生対象

第6回 病院体験ツアーを開催

子供たちの好奇心を掻き立て

毎年恒例の「病院体験ツアー」が開催されました。今年は待望の男子が6名も加わり、総勢17名の元気な中高生が参加してくれました。あまたのチーム近森の職種のなかから、厳選された11のブースが設けられました。

いずれのブースも、工夫が凝らされ、子

近森病院循環器内科 部長 山本 哲史

供たちの好奇心を掻き立てるものでした。短い時間のなかではありましたが、それぞれのブースを堪能し、医業に魅力を感じてくれたことと思います。熱く、キラキラと輝く瞳の奥に、明日の医療人の萌芽を見ました。

やまもと さとし



▲整形外科 創外固定の体験



▲循環器内科 カテーテルの挿入体験



▲ER 心肺蘇生



▲臨床検査部 血液型を調べる検査



▲神経内科 ハンマーを使って反射を調べる



▲形成外科 手術の縫合手技に挑戦



▲リハ病院 免荷式天井吊り下げリフトによる歩行体験



▲臨床工学部 人工呼吸器を体験して



▲看護部 呼吸音の聴診



▲薬剤部 粉薬の計量

17名の中高生とともに



▲ER インタビューを受けました

